

# 「大齋節」ってなんなの？

移動祝日（毎年、日付が変わる祝日、イースターなど）

固定祝日（毎年、日付が同じ祝日、クリスマスなど）

**大齋始日（灰の水曜日）** 2013年は2月13日 断食日

復活日から日曜日を除く40日前（46日前）大齋節の始まりの日で毎年水曜日になる前年の棕櫚の十字架を燃やし灰にして、額に十字の印をつける礼拝をする。

灰は最終的には塵と終わる人間の儚さを思い起こさせるために使われるが、昔は灰が石鹸の代用品として洗浄に用いられ、人間の罪が贖い、新たな力（浄化や再生）といった肯定的な意味もある。

## 聖週

復活日前の1週間（後述）

**復活日（イースター）** 2013年は3月31日

3月21日以後の満月の後の最初の主日

（もし満月が主日に当たるときはその次の主日）

理論上、一番早いと3月22日、一番遅いと4月25日になる

## 大齋節（レント）

聖公会では「大齋節（たいさいせつ）」 ローマカトリックでは「四旬節（しじゅんせつ）」

プロテスタントの教派によっては「受難節（じゅなんせつ）」

ラテン語で40の意味の「Quadragesima（クアドラゲシマ）」から

40という数字は、準備の期間をあらわしている

- 例）
- ・モーセは民を率いて40年荒野を彷徨った。
  - ・イエスは公生涯の前に40日間荒野で過ごして断食した。  
（マタイ 4:1～、マルコ 1:12～、ルカ 4:1～）

本来、先人たちの慣習に従い求道者の洗礼準備のために設けられた期間だった。

初代教会では、復活日の前の「40時間」断食していた。

復活徹夜祈祷には成人の洗礼を行っていた。

受洗者たちも初陪餐に備えて40時間断食していた。

これが後に、40時間が6日間に、さらに6週間の洗礼準備が行われるようになった。

4世紀頃、キリスト教が公認され受洗希望者の数が激増したので、十分な準備が行き届かないようになり、求道者のみであった期間を全信徒に対して求めるようになった。

## 「祈り」「断食」「慈善」

食事の節制と祝宴の自粛が行われ、償いの業が奨励されてきた。

## 聖週

- ・復活前主日（棕櫚の日曜日）  
マタイ 21:1-11 8節「木の枝」  
マルコ 11:1-11 8節「葉のついた枝」  
ルカ 19:28-40  
ヨハネ 12:12-19 13節「なつめやしの枝」 = 「棕櫚の枝」  
棕櫚の木は、聖なる木、勝利や力の象徴
- ・復活前月曜日、復活前火曜日、復活前水曜日
- ・聖木曜日  
「最後の晚餐」  
マタイ 26:17~、マルコ 14:12~、ルカ 22:7~、ヨハネ 13:21~  
「洗足」の日  
ヨハネ 13:1~
- ・聖金曜日（受苦日） 断食日  
イエスが十字架にかけられた日、聖餐式は行えない
- ・聖土曜日  
イースターヴィジル（徹夜祈祷会） 聖餐式は行えない

## その他メモ

聖木曜日・聖金曜日・聖土曜日を「聖なる3日間」と呼ぶ  
イエスが復活したのは「3日後」ではなく「3日目」

昇天日 2013年は5月9日

復活日から40日目

聖霊降臨日（ペンテコステ） 2013年は5月19日

復活日から50日目

πεντηκοστή ἡμέρα（50番目の日）